

感染予防対策と経済性に配慮した病院設計

清掃の容易さと耐久性に優れた設計のポイント

波多江新平 ICHG 研究会 代表

京都市立医科大学客員講師

【はじめに】病院の環境は、どんな場所でも無菌にする必要はない。しかし清掃が行き届き、環境表面が乾燥していることは不可欠な要因である。病院を清潔に保つために設計上必要な対策は、ほこりの持ち込み対策と結露対策である。

【感染予防対策に配慮した病院設計総論】

ほこりと結露は感染予防対策に大きく関与する。ほこりが少ない場所が手術室であり無菌室等である。室内の空気中のほこりを減少させれば無菌に限りなく近づく。また、結露をなくせば、カビの発生、臭いの発生も防ぐことができる。清掃を行うとそのたびにほこりが舞うので、清掃回数及び清掃場所が少なくなるよう清掃しやすい構造に徹底する。

【ほこりの管理、清掃がしやすい構造と材質】「清掃さえしていれば問題ない」という意見があるが、その清掃が行き届かないのが現実である。ほこりは水平部分に溜まるので水平部分を減らし、結露は温度差で生じるので、温度差を生じにくい材質・構造が必要となる。その具体策を解説する。

【耐久性と働きやすさ】傷みやすい部分、例えば壁の角部分、ストレッチャー等がぶつかる部分には、あらかじめ適切な素材でガードをつけておくことが必要である。

【ノーワックス管理の床材「病院の床は病院の顔」】病院がきれいか汚いか最も目に付き、清掃面積の最も広いのが床である。床は壁や天井より汚れが目立ち、床の色彩も病院の明るさに大きく左右する。また、傷みが激しいのも床である。

EU諸国の多くの病院では、ワックスを使用せず（環境問題）、水拭きだけで対応できる床材が普及している。色彩も豊富で見た目にも楽しい。床材が固いためストレッチャーや車椅子の運行もスムーズで、歩行者の疲れも少ない。耐久性にもすぐれる。カーペットは、価格も安く施工も簡単であるが、病院では血液・体液・排泄物等が飛散することを考えると、耐久性も悪く不向きであり、経済効果がでない。

【おわりに】建築側は、資材の価格が安く、施工しやすい材質施工方法を優先し、使い勝手まで配慮することは少ない。床の材質等については、使用者側からの強い要望が必要である。設計初期段階からの関与が不可欠である。